

平成 25 年度卒業研究発表会要旨集の巻頭にあって

戸祭 森彦 (筑波大学 生物学類 4 年)

思えば初めて筑波山に登ったのは高校 1 年生の時でした。まだ生き物に触る経験もそう多くなかった私は一心不乱に山に登り、頂上から見る景色にただ圧倒されていました。

筑波大学に入学してからは、生物学にどっぷり浸かった 4 年間でした。1 年生から研究室に出入りして寄生蜂の研究に没頭し、4 年生の卒研ではつくばの地を離れ、下田臨海実験センターの美しい海洋生物の世界に触れました。

1 年生のころは全てが手探りでした。指導していただいた先輩から「まずは虫を飼育する事から始めよう」と言われた時にはどうなる事かと不安になったものです。それから 2 年生、3 年生と経験を重ねるうちに研究にも肉がつき、徐々に自分からどんな実験が必要なかを考えられるようになっていきました。これこそ研究の醍醐味だと思うのですが、仮説を立てて「どうやらそれらしい」結果を導くような実験をしている時には、毎日ワクワクしていました。仮説を裏切るような結果も出ましたが、生物の営みの奥深さを感じるいい機会となりました。3 年生の終わりに海洋生態学に魅せられて研究室を離れる際には自分がしてきた研究が名残惜しく、なんとか論文にしようと奔走したのを覚えています。卒研もまた、期間半ばまでは慌ただしく過ぎていきました。実験そのものが立ち消えになった事もあり、データが出そろうた時の感激はひとしおでした。

そんな研究に月日を捧げた生物学類生の汗と涙の結晶がこの要旨集です。ばらばらとめくってみると、卒研生の苦悩と喜びの声聞こえてくるかもしれません。そして、卒研発表会では先輩の

みなさんにとって多様な生物分野の話聞く事ができるまたとない機会です。是非たくさんの方の発表を聞いて、深淵な生物学の一端を覗いてみてください。その後の研究室選択に影響するような刺激的な発表が聞けることと思います。

卒研発表会を用意する立場の 2・3 年生には、授業などで忙しい中、準備・運営への尽力に感謝しています。また、私を含め多くの学生が 1 年生から各研究室で生物学に触れる機会を得、4 年生では一年間という短い期間で発表に足る研究ができたのはひとえにご指導いただいた生物学類の先生方と先輩方のおかげです。本当にありがとうございました。

それから、その陰には毎日のように愚痴にも近い話を聞いてくれた友人たちや事あるごとに私を頼ってくれたかわいい後輩たちの協力がありました。言い尽くせぬ心からの感謝を送ります。

卒研発表という大学生活の最も大きな山を超えようとしている今、改めて筑波山を思います。山道を埋め尽くす草本類やコケ類、菌類の数々。ふと視線をあげるとひらひらと目の前を舞う鱗翅目。高校生の時は躍起になって踏みしめた道の片隅にも、生物はひっそり、時に優雅にダイナミックな生態系を形成しています。再び足を踏み入れた山中で、あの時は気がつかなかった生き物たちの小宇宙に目を奪われました。このような時、生物学を学んでいて本当によかったと実感できます。

講義を聞いて知識を得るだけでなく、折角緑の多い筑波大学、是非虫取り網を片手に外へ出かけてみてください。

Communicated by Mitsuru Hirota, Received January 5, 2014.